

## 特集

### 心房細動について

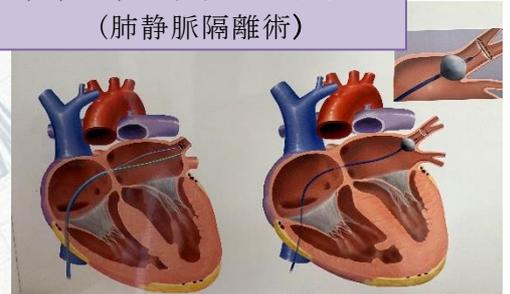
心房細動は、成人において最も一般的な不整脈の 1 つで、放置すると脳梗塞や心不全などの重大な合併症を引き起こすリスクがあります。特に、心房細動の持続期間が長くなるほど、心房のリモデリングや電氣的・構造的変化が進行し、治療が困難となる傾向が認められており、早期の診断と適切な治療開始が非常に重要です。

心房細動の有病率は男女とも加齢とともに増加し、70 歳代では男性 3.44%、女性 1.12%、80 歳以上では男性 4.43%、女性 2.19%であったと報告されており、将来の人口予測を用いて計算すると、2050 年には心房細動患者は約 103 万人、総人口の約 1.1%を占めるとも予想されています。

心房細動の症状としては、動悸、息切れ、疲労感、胸部不快感などが挙げられますが、無症状のケースも多く、検診の心電図異常、聴診や検脈で脈の不整があることで見つかることも多いです。また、息切れや疲労感を年齢が原因だと勘違いされている患者様もいるため、注意深く問診をすると、無症状ではなかったケースもあります。1 回の心電図検査では異常が指摘されない方でも長時間の心電図検査で心房細動が検出されることがあります。当院では、24-72 時間の間で不整脈の有無を調べる Holter 心電図検査を行っており、追加精査も可能です。

心房細動の治療の方法には、レートコントロール、リズムコントロールがあり、以前までは、臨床的な予後はどちらも変わらないと考えられておりましたが、その後の複数の研究により、現在は適切な患者に早期にアブレーションを行うことで、心不全入院や死亡率を低下させるということが報告されており、カテーテルアブレーションが主流の治療となっております。

カテーテルアブレーション  
(肺静脈隔離術)



カテーテルアブレーションは年々技術が進歩し、短時間、低侵襲で行うことができるようになってきており、80 歳代のご高齢の患者様でも有症候性心房細動で、ADL が自立し、認知機能に問題がない方は、カテーテルアブレーションを施行できる連携施設へご紹介させていただいている例も少なくはありません。

聴診や検脈で心房細動が疑われる患者様、心電図で心房細動を指摘された患者様など、さらなる治療が必要な患者様がいらっしゃいましたら、是非ご紹介ください。連携施設を通じて、菊川市の心疾患患者様へ最適な治療へつなげる機会を提供できるように努めて参ります。

【 担当：内科 富田 雄一郎 】

## 診療実績

### ○受託検査実績

| 項目    | 9月   | 10月  |
|-------|------|------|
| CT    | 38 件 | 48 件 |
| MRI   | 33 件 | 36 件 |
| 超音波検査 | 5 件  | 21 件 |
| その他検査 | 9 件  | 10 件 |

### ○診療実績

| 項目      | 9月      | 10月     |
|---------|---------|---------|
| 紹介患者数   | 267 人   | 308 人   |
| 逆紹介患者数  | 235 人   | 278 人   |
| 1日当り患者数 | 入院      | 174.0 人 |
|         | 外来      | 172.9 人 |
| 病床利用率   | 413.1 人 | 386.6 人 |
| 救急搬送件数  | 66.9 %  | 66.5 %  |
|         | 124 件   | 109 件   |

## 超音波内視鏡導入について

菊川市立総合病院では 2024 年 10 月に富士フィルム社製のコンベックス走査超音波内視鏡 EG-740UT 及び超音波診断装置 ARIETTA850 を導入しました。

今回導入した超音波内視鏡 EG-740UT は、超音波の送受信感度を向上させた新開発の高性能振動子を搭載することで、超音波画像の高画質化を可能にし、病変の詳細な観察をサポートする超音波スコープです。また、超音波診断装置 ARIETTA850 は、幅広い臨床領域に高品質な診断画像を映し出すことが出来る高スペック超音波診断装置です。

通常、超音波内視鏡を使用した検査をする場合、内視鏡用超音波観測装置との組み合わせで検査を行います。県内では 2 施設で上述の組み合わせでの検査が行われていますが、当院では、県内で唯一、超音波内視鏡 EG-740UT と超音波診断装置 ARIETTA 850 を接続し検査を行うことが可能です。

超音波内視鏡と超音波診断装置を組み合わせることで、超音波診断装置 ARIETTA850 に搭載された画像処理技術や多彩な診断アプリケーションを使用することができ、観測装置との組み合わせで行う検査に比べ、より鮮明な画像を描出することができるようになります。そのため、画質にこだわった、より高度な超音波内視鏡検査を行うことが可能となり、胆道膵臓診療に質の高い検査を提供できるようになります。

当院での超音波内視鏡と超音波診断装置を用いた検査は毎月第 3 木曜日を予定し 10 月より運用を開始しています。



超音波診断装置 ARIETTA850 (左) と内視鏡装置 (超音波スコープ EG-740UT) (右) 接続イメージ



超音波スコープ EG-740UT



超音波スコープ EG-740UT  
先端プローブ

【 担当：臨床工学科 宮原 孝典 】

### 【 発行 】

菊川市立総合病院 地域医療支援課 〒439-0022 静岡県菊川市東横地 1632  
TEL：0537-35-2344 Eメール：renkei@kikugawa-hosp.jp  
FAX：0537-35-2843 ホームページ：http://www.kikugawa-hosp.jp



©菊川市